

令和7年度第1回奈良市多様な学びの在り方検討会議の意見の概要			
開催日時	令和7年8月25日（月）午後1時30分から午後3時00分まで		
開催場所	Web 会議		
参加者	出席者5人 事務局8人	担当課	教育部 教育支援課
開催形態	公開（傍聴人 0 人）		
意見を求める内容等	1 取りこぼしている状態とはどのような状態を意味するのか 2 何をもって取りこぼしていない状態と言えるのか		
議事の概要及び意見の取り纏め			
1. データで見る奈良市の不登校支援の現状と、取りこぼさない状態について（意見等） ・「取りこぼしている状態」とはどのような状態を意味するのか、その定義付けが必要である。また、何をもって「取りこぼしていない状態」と言えるのか、その判断基準を定める必要がある。 ・私たちが実施していることを公表し、個人情報をも伏せた上で意見交換を可視化する。またデータの中に「ここに私がいる、この子がいる」と見えれば、それは取りこぼしてはいないと言えるのではないかな。 ・協調性の高い子や知的好奇心の高い子供が不登校になりやすいという現状があり、本来知的好奇心を高めることを目指すにも関わらず不登校になりやすい現状は、学校体制を含めて考えていかなければならない。 ・尼崎市では不登校の分析調査を実施しているため、尼崎市と連携し、共同研究を行うことに期待している。尼崎市との連携は、データで相互に補完できたり、共通の視点が持てれば良い。 ・「取りこぼしている」状況の定義は難しいが、学校現場としては様々な意見を聞きながら、何とか生徒をサポートし、支援につなげていきたい。			
2. 不登校児童生徒の現状とつながりについて（意見等） ・不登校になる前の段階から、子供たちが学校以外や大人とのつながりを持つことが重要である。連絡が取れるという状態だけではなく、「つながりがある状態」を作っていくことが平時から必要である。 ・奈良市では8割の児童生徒が何らかのつながりを持っている現状は、「誰も取りこぼさない状況に近づきつつある」と評価できる。 ・尼崎市ではユースセンターの取り組みに力を入れている。日常的に通える居場所を整備することで、不登校になった子供たちがスタッフとつながれる体制を構築している。			

3. データ分析と情報公開について

(意見等)

- ・データから見えることと、データでは見えないことをきっちり区別する必要がある。
- ・フリースクールの事例を参考に実態を把握する必要がある。好事例とその理由を分析し、量的分析と質的分析の両面からアプローチすることが望ましい。

4. その他の意見

- ・海外の事例では、保護者と教師が近い関係性を持つことが重要とされている。
- ・奈良市では全日程欠席が比較的低い割合であり、誰もつながりがない状態が少ない状況に近い。この状況が悪化しないよう、またより良い状態に近づけるよう、この会議体を通じて進めていきたい。

5. まとめ

児童生徒が取りこぼされていない状態とは、居場所として活用できる場所や相談できる場所があることを示唆し、そのためには平時から居場所を増やしていくことが必要であり、またデータのとり方については同じ目標を持つ自治体と連携していくことが望ましい。